

第2学年 道徳科学習指導略案

2組 計27人(男子15人, 女子12人)

指導者 元野 彩

1 主 題 名 だれにでも同じように【C 公正, 公平, 社会正義】
教材名「三びきは友だち」(日本文教出版2年)

2 本主題で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

判断・形成力	公正, 公平に接することについての様々な感じ方や考え方に触れ, 自分が好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接するための考えを形成する力
協働力	友達との「学び合い」や教師とのやりとりを通して, 自分の好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接することでみんなが気持ちよく過ごせることのよさについて, 自分の考えを広げたり深めたりする力
振り返る力	自分の好き嫌いによる言動をしてしまった心の弱さや, 自分の好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接することの大切さについて考えたことを基に, これからの学習や実生活に生かそうとする力

3 ねらいとする道徳的価値について

(1) 指導内容についての基本的な立場

公正, 公平にすることは, 自分の好き嫌いにとらわれず誰にも分け隔てなく接し, 偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることである。本主題では, 自分の好き嫌いによる言動が適切であることについて考え, 好き嫌いにとらわれずに正しい判断をすることの大切さに気付くことができるようにする。また, 自分の好き嫌いによる言動を慎むことで, みんなが気持ちよく過ごせることにも気付くことができるようにする。これらのことにより, 誰にでも同じように接していこうとする道徳的心情を育てることができるようにする。

(2) 全体計画(別葉)における本主題の位置付け

〈本校の道徳教育の目標〉 よいことと悪いことの区別を主体的に判断し, 生命ある全てのものを大切にしようとする子供を育てる。
〈重点目標(低学年)〉 学校での生活に適應し, しっかりした日常生活を送り, 人間としての在り方の自覚に結び付く基本的な道徳性を身に付けるようにする。
〈子供の実態〉 自分本位な考えから, 正しい判断ができず, 友達に嫌な思いをさせてしまうことがある。

〈テーマ〉 みんなが気持ちよく安心して過ごすために大切なことは。

教科等	主な学習活動	知識の理解の質の高まり
朝の活動 10月	みんなが気持ちよく安心して過ごすことについて, 今の課題や大切にしたいことを明確にする。	友達と仲よく過ごすことはできているけど, 嫌な気持ちになることがあるな。

「正しいと思うことを」 10月 【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】 『ある日のくつばこで』	自分が正しいと思ったことを進んで行うために大切な気持ちについて考える。	自分が正しいと思ったことを進めることは, すっきりした気持ちになるな。	正しいことをするとすっきりする。
「みんながつかうものを大切に」 10月 【C 規則の尊重】 『一りん車』	きまりを守るために大切な気持ちについて考える。	自分のことだけを考えるのではなく, みんなの気持ちを考えて, きまりを守りたいな。	みんなのことを考える。
「だれにでも同じように」 11月 【C 公正, 公平, 社会正義】 『三びきは友だち』	自分の好き嫌いにとらわれず, 誰にでも同じように接するために大切な気持ちについて考える。	誰かが嫌な気持ちになることはやめて, 誰にでも同じようにしたいな。	好き嫌いにとらわれない。

朝の活動 12月	みんなが気持ちよく安心して過ごすことについて振り返る。	みんなのことを考えて, 自分の好き嫌いに関係なく, 正しいことを進んでいきたいな。
----------	-----------------------------	---

【他教科等との関連】

生活科 11月 「山下まつりにむけて」 ・ 協力しておもちゃ屋さんの準備をする。	学級活動 11月 「言葉遣いについて」 ・ 正しい言葉を進んで使おうとする。	体育科 12月 「鬼遊び・宝取り鬼」 ・ ルールを守って楽しく活動する。
--	--	--

【家庭や地域社会との連携】

テーマに関わる自分の課題や道徳科の授業等で考えたことについて, 家庭で話題にしてもらうことで, みんなが気持ちよく安心して過ごすために考えたことを保護者に価値付けしてもらう。

4 子供の実態について

本学級には、「友達に優しくしたい」、「困っている友達がいたら助けたい」と感じている子供が多い。そのため、普段の生活の中でも一人でいる友達を見付けるとすぐに声を掛け、一緒に活動したり仲よく遊んだりする姿が見られる。しかし、「仲よしの友達には、問題の答えを教えてあげた」など、自分の好き嫌いによる言動をしてしまった経験がある子供もいる。また、給食の配膳の際、仲のよい友達のを優先して準備をしたり、自分の好き嫌いによって友達に強い口調で注意してしまったりする姿も見られる。そこで、本時では、自分の好き嫌いにとらわれた言動で、相手に嫌な思いをさせてしまうことに気付き、誰にでも同じように接することの大切さについて考えることができるようにする。

5 教材について

本教材は、ぴよんとわんととぼんきちの三匹で相撲を取って遊んでいるときに、ぼんきちとわんたの二匹が花壇を壊してしまう話である。花壇のお世話をしているくまおじさんに、「花壇を壊したのは誰だ。」と聞かれると、ぴよんたは、ぼんきちのことだけを言い、「わんたさんのことは、言わないからね。友達だもの。」と言って、わんたのことは黙っておくことにした。しかし、わんたは悲しい顔をしてくまおじさんのところへ謝りに行ってしまふ。ぴよんたは、わんたの後ろ姿をじっと見つめた後、大急ぎでみんなのところへ走って行った。ぴよんたがみんなのところへ走って行ってくまおじさんに何というか考えることで、ぴよんたの好き嫌いによる言動が過ちであることに気付き、正しい判断や誰に対しても同じように接することの大切さについて考えることができるよう、本教材を活用する。

6 指導に当たって

(1) 「自分の問い(自分のめあて)」をもたせる教師の手立て

「気付く」過程で、本テーマに関わる前時の二つの学習について振り返った後、給食準備で自分の好き嫌いによって不公平な言動をしている場面を提示し、みんなが気持ちよく安心して過ごすために正しいことを進んで行ったり【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】、きまりを守ったりすること【C 規則の尊重】の大切さが分かっている、自分の好き嫌いで誰にでも同じように接することができないときがあると気付くことができるようにする。そうすることで、誰にでも同じように接するためにどんな気持ちが大切なのか考えたいという問題意識を高め、「自分の問い(自分のめあて)」をもつことができるようにする。

(2) 「学び合い」を活性化させる教師の手立て

「見つめる」過程で、走って行ったぴよんたはくまおじさんに何を話すかを考え、ワークシートに記述させる。その後、役割演技で、全体での「学び合い」(磨き合い)をすることで、友達の考えと自分の考えの相違に気付き、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。その際、「心の窓」を使って、誰のことを考えて言ったのか、視覚的に捉えやすくし、自分の好き嫌いにとらわれた言動かどうかが明確になるようにする。また、「みんなのことを同じように考えることができたなら、これからどのように過ごせそうか」と問い掛けることで、自分の好き嫌いにとらわれない言動のよさについて気付くことができるようにする。

(3) 学びを振り返り、学びを価値付ける教師の手立て

「深める」過程で、本時の「自分の好き嫌いにとらわれず、誰にでも同じように接すること」について考えた大切にしたいことやこれからの生活に生かしたいことなどをワークシートに記述する時間を設定する。その後、全体で共有することで学びを価値付けし、道徳的価値への理解を深めることができるようにする。

「高める」過程で、友達と仲よく過ごしている場面などの写真を提示する。そうすることで、本時で考えたことを自分の生活場面と関連付けて捉えることができるようにし、自分の好き嫌いにとらわれず、誰にでも同じように接していこうとする実践意欲を高めることができるようにする。

7 本時

(1) **ねらい** 自分の好き嫌いによる言動が過ちであったことについて考えることを通して、好き嫌いにとらわれず正しい判断をすることの大切さに気付き、誰にでも同じように接していこうとする心情を育てる。

(2) **展開** □ 教師の言葉掛け □ 子供の反応 ◆ 重点評価項目

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
気付く (10)	<p>1 本テーマに関わる前時の学習【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】、【C 規則の尊重】について振り返った後、誰にでも同じように接することができなかつたことについて考える。</p> <p>どうして、準備が終わっていないお盆があるのでしょうか。みんなも似たようなことがないですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲よしの友達の分だけ準備したからだな。 わたしも仲よしの友達にだけ答えを教えたことがあったな。 	<p>○ 本テーマに関わる前時の学習【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】、【C 規則の尊重】について振り返った後、給食の準備で自分の好き嫌いで不公平な言動を提示する気持がたまたまも同じよきと</p> <p>○ 「心の窓」に誰のことも考えているのか、視覚的に捉えやすくする。</p>
見つめる (25)	<p>2 本時のめあてを立てる。</p> <p>だれにでも同じようにせつするにはどんな気もちが大切な。</p> <p>3 教材「三びきは友だち」を読んで、ぴよんたの気持ちを中心に考える。</p> <p>(1) 「わんたさんのことは、言わないからね。友達だもの。」と言ってにつこり笑うぴよんたの気持ちについて考える。【人間理解】</p> <p>わんた</p> <ul style="list-style-type: none"> わんたさんが怒られるのはかわいそう。 わんたさんのためにいいことしたな。 <p>(2) 「ぼんきちさんです。」とぴよんたが言ったときのぼんきちとわんたの気持ちについて考える。</p> <p>ぼんきち</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくだけじゃないのに。 どうして、そんなこと言うの。ひどいよ。 <p>わんた</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくも謝りたかったのに。 友達でもうれしくないよ。 ぼんきちさんにわるいな。 <p>(3) くまおじさんに何を話すかを考え、全体で役割演技をする。【価値理解】【他者理解】</p> <p>走って行ったぴよんたさんはくまおじさんに何と言うのかな。誰のことを考えて言ったのかを、「心の窓」に表してみよう。</p> <p>わんた</p> <p>「みんなで遊んでいたら花壇を壊してしまいました。ごめんなさい。」(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼんきちさんだけのせいじゃないか <p>わんた</p> <p>「ぼんきちさんもわんたさんもわざと壊したわけではないんです。」(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 二人を守りたいから。 	<p>○ 「心の窓」で誰のことも考えているのか、視覚的に捉えやすくする。</p> <p>○ ぼんきちとわんたの気持ちについて考えることで、ぴよんたの自分の好き嫌いによる言動が、相手に嫌な思いをさせることを感じ取ることができるようにする。</p> <p>○ くまおじさんに何を話すかを考える。その後、役割演技をする。全体で共有すること、自分の考えを相違なく広げたい。その際、「心の窓」を誰に示すか、どうかが明確になる。</p>
深める (5) / 高める (5)	<p>(4) 自分の好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接することのよさについて考える。</p> <p>みんなのことを同じように考えることができれば、これからどのように過ごせそうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんながすっきりした気持ちで過ごせる。 みんなで仲よく遊べる。 <p>4 自分の好き嫌いにとらわれず、誰にでも同じように接するために大切なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> なかのよい友だちだけでなく、みんなにやさしくしたい。 みんながすっきりするように、友だちのことを考えたい。 <p>5 教師の説話を聞き、これからの生活について考える。</p>	<p>○ 本時の振り返りを全体で行った後、大切にする道徳的価値を深めること</p> <p>◆ 登場人物を自分に置き換え、自分の好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接することについて考えていたか。【発言・ワークシートの記述】</p> <p>○ 教師の説話を聞き、これから自分の好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接していこうとする実践意欲を高めることができるようにする。</p>

「自分の問い(自分のめあて)」

「学び合い(磨き合い)の活性化」

「学びの振り返りと価値付け」

